

新善光寺 寺報 北 縁

2023年10月 Vol. 53

# ほくえん



特集

「お地蔵さんがやってきた!!」

## じゅう や 十夜法要のご案内

十夜法要とは、浄土宗の最も大切な經典の一つ「無量寿經」の中に、

「此に於て善を修すること十日十夜すれば、  
他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」

現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。

とあることに基づく法要です。

11月3日(金) 文化の日

午後1時 法話 → 10分間の小休憩 → 午後2時 法要

(塔婆申込には同封の振替用紙をお使いください)

### 法要に参加してみよう



1 まずお寺に入ります。駐車場は手狭なため車が停められないかもしれません。その際は周りの有料駐車場をお使いください。公共交通機関では地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅6番出口がすぐです。



2 受付をすませましょう。



3 塔婆を受け取り、水向け供養をします。お坊さんが付いていますのでご安心ください。



4 法話がはじまります。本堂に行きましょう。

5 次は、法要です。少し休憩をして始まります。



法要開始です。

お子様向けにおもちやをご用意しております。



※本堂は暖房をつけますが、寒く感じるかもしれませんので、当日は暖かい服装でお越しください。  
見どころの多い仏教に親しむことができる法要です。多くの皆様のお参りをお待ちしております。

〈法話〉 大阪教区  
浄念寺 住職 坂下 雅裕 上人



2019年の十夜法要での法話

新善光寺の十夜法要は“ココ”に注目！！

- ・ **双盤念仏** ～長い節を付ける独特のお念仏を唱えます。
- ・ **太鼓** ～木魚ではなく太鼓でお経を読みます。本堂に太鼓の音が響き渡ります。
- ・ **回向** ～和讃（歌）を唱えてそれぞれお申し込みのお戒名を一霊位様ずつ丁寧に読み上げてご供養いたします。
- ・ **解説** ～法要ではモニターでスライドを使いお経を解説しながら進めます。



一日限りの特別展示

新善光寺所蔵宝物の特別展示ですが、十夜法要に合わせておこないます。

前回とはまた違う展示物になると思います。どうぞ、ご覧ください。

展示期間：11月3日 午前9時～午後2時



## お地蔵さんがやってきた!!

9月下旬の秋彼岸のさなか、中央区南28条西11丁目に鎮座している<sup>めおとりゅうじん</sup>女夫龍神(神社)より新善光寺にお地蔵さんが遷座されました。

まずは女夫龍神の由来について説明します。

西11丁目側にちょっと林に包まれたところがある。広さは450坪(約1480平方メートル)あるという。ここはかつて兵村追給地であったが、大正10年に本間トクが取得した。本間トクは北海石版社長本間清造の身内である。

本間トクは昭和25年1月、80歳で死去したが、昭和63年死去した本間章介が大正10年に生まれ、生来病弱であったので健康を気づかい何とか健康に過ごせるように願っていた。またここは豊平川がかつてこの地を流れ犠牲者があったことに加え、道路工事にも犠牲者が出たことから、昭和3年これらの病難・地難・水難よけを祈念し、大石を祭神に社殿を建立、女夫龍神を祀った。

(出典:「さっぽろ歴史散歩 山の辺の道一定山溪紀行」)

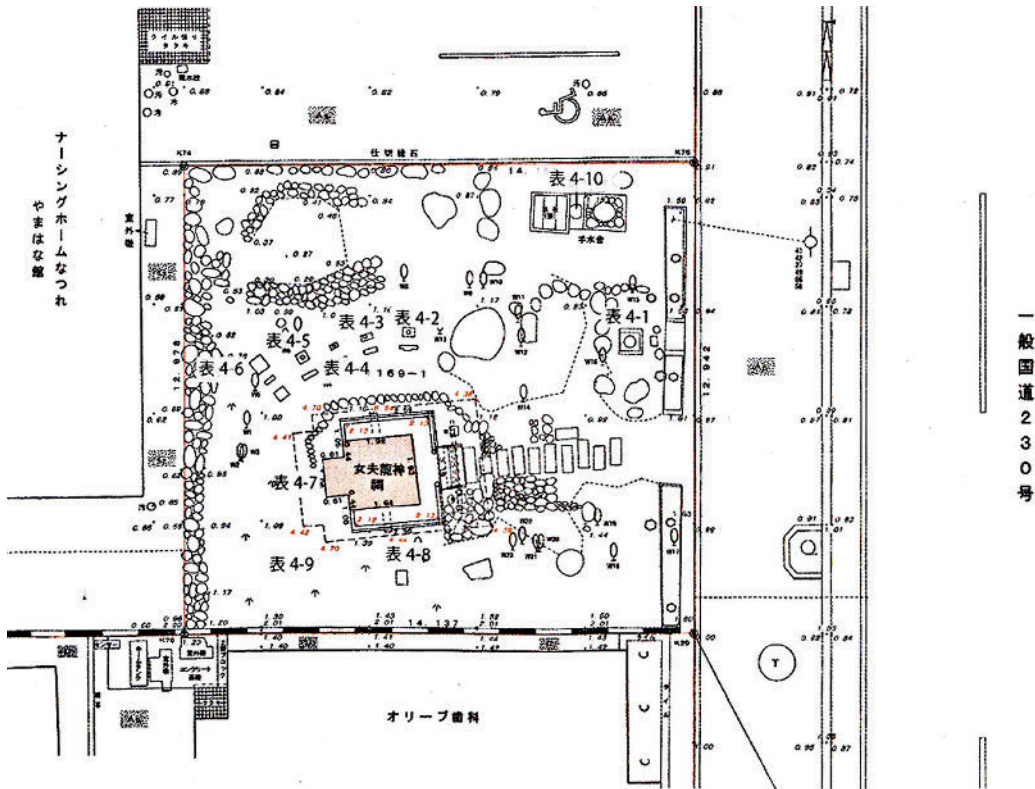
石山通を南に進み南警察署の手前の一角に女夫龍神があります。祭祀を継承されている本間茂氏よりこのお地蔵さんの話をいただいた宗川僧侶によると、こちらの道はよく通り林があったのは知っていたが、まさかこのように中に女夫龍神があり、お地蔵さんが祀られているとはわからなかったとのこと。今回このようなご縁をいただき感謝しております。





寄贈者の本間茂氏

現在、お地蔵さんは山門横に安置しておりますが、いずれは天然石慈母観音像や馬頭観音の石碑がある中庭に移したいと思っております。位置としてはただ、今のままでは木々がかなり伸びており、少し整備が必要であると思われます。中庭では四季の花々を感じられることもできますし、ベンチなども置いて都会のちょっとした緑あふれる癒しの空間にしたいと思っております。



女夫龍神配置図（北海道博物館研究紀要第8号別冊より）

## 仏さまのおはなし ⑦

前回より北縁47号（令和3年10月号）でご紹介した、如来・菩薩・明王・天の順にお話しています。今回は如来さまの2回目になります。2回目は皆さんのご自宅のお仏壇にお奉りされている、阿弥陀さまのお話になります。阿弥陀さまについては、少し紙面をさいて二回に渡ってお話していきたいと思います。

### ◆阿弥陀如来

今回より「阿弥陀如来」のお話になります。阿弥陀如来（仏）はご周知のとおり、我が浄土宗のご本尊であり西方「極楽世界」というお浄土の仏さまです。北縁47号でご紹介した阿弥陀如来のご利益は「極楽往生・現世安穩」としてありますが、この意味は「お念仏を称えることで極楽へ往生することを願い、その作法を通じて人格を高め、明るく安らかな毎日を送る」ということになろうと思います。

阿弥陀如来（仏）のサンスクリット名は「アミターバ」もしくは「アミターユス」といい、この名を音写（音に漢字をあてる）して「阿弥陀」としています。「アミターバ」は「はかりしれない光を持つもの」、「アミターユス」は「はかりしれない寿命を持つもの」という意味を示すことから、阿弥陀仏の別称を「無量光仏（無量の光明）」または「無量寿仏（無量のいのち）」と言います。

### ◆阿弥陀如来像の特徴

浄土教（浄土宗各派、真宗教団など）のご本尊は、基本的には阿弥陀如来をお奉りします。そのお像の特徴は、立像（立ったお姿の像）であれば手に「来迎印」と呼ばれる印相を結び、臨終者を迎えにくる様相のお姿です。また座像（座ったお姿の像）であれば、腹の前で手に「定印」を結んだお姿となります。「定印」とは、仏が思惟（瞑想）に入ったことを示す印相です。阿弥陀如来の定印は、一般的に人差し指と親指で輪をつくる「上品上生」印が多い様です。この「上品上生」についてですが、浄土宗の所依経典「観無量寿経」に阿弥陀如来の存在をさとする十三の観法（瞑想の方法）と、阿弥陀如来が授ける九つの救いが説かれています（九品九生）。これは「上品・中品・下品」と「上生・中生・下生」の掛け合わせで九つになりますが、上品上生はその最上位を示します。

また、仏像には「光背」と呼ばれる光明をかたどった装飾が施されます。様々な形がありますが浄土宗のご本尊として奉る阿弥陀如来の光背は「舟形光（船を上から見た形のような光背）」と呼ばれるものです。



阿弥陀如来坐像（新善光寺）



阿弥陀寺如来立像（霊源寺）

前号でお話した薬師如来同様、阿弥陀如来にも脇侍の仏さまがいらっしゃいます。慈悲を象徴する「観音菩薩」と智慧を象徴する「勢至菩薩」のお二方です。阿弥陀如来と観音・勢至菩薩で「弥陀三尊」と呼びます。このお像を奉る場合は、真ん中に阿弥陀如来、向かって右が観音菩薩、左が勢至菩薩となります。

#### ◆阿弥陀如来の成道

阿弥陀如来が仏と成った説話は「無量寿経」に説かれます。ある国王が一切の衆生救済のために王位を捨てて、「世自在王仏」のもとで「法蔵菩薩」と名乗り修行します。法蔵菩薩は世自在王仏に「仏の国土の成り立ちを見せて欲しい」と願いを述べ、その数ある仏国土より優れた点を選び取り、衆生救済のため様々な願い発し、五劫（とてつもなく長い間）思惟して行を選びます。その願とその行を選び取った法蔵菩薩は、四十八の誓願をおこして修行し、それが成就し「阿弥陀如来」となります。そして現在も仏国土である極楽世界で説法をしていると説かれています。

次回は阿弥陀如来の「誓願」についてお話したいと思います。

## 五重相伝について②

前号では、五重相伝という浄土宗でもっとも大切な法要を簡単に説明いたしました。

5つの書物を通じて法然上人がこの教えしかないと選ばれたお念仏の教えを受けていただき、お念仏をとなえる行者になられ、今もまたのちの世も阿弥陀さまにお任せした幸せで心安らかなお念仏の信仰生活を、お送りいただくことが目的になります。

また、6月におこなった御忌・永代祠堂法要において大阪・大通寺住職より映像を交えながら、この五重相伝についてお話いただきました。そのお話の中から少し抜粋したいと思います。

「私は教員をしていましたので、退職した今から10年前の年に五重を行いました。88年ぶりの念願の開催でした。そして10年後の今年にまた開催しました。お経と説法の時にはそれぞれ場所を変え、説法の時はテーブルと椅子で受けさせていただきました。肘もつけるし荷物も置けるということで大変好評でした。近い将来開催する新善光寺でもこのようにしたらいいのではないのでしょうか？」

実は新善光寺副住職に手伝いに来ていただき、お経を読んでいただく回向師さま、お話をいただく勧誡師さまにも新善光寺の五重の時には来ていただくようお願いしております。

そのほか諸々のことをサポートする僧侶も数名精鋭の者をお願いしております。

前回新善光寺でおこなったのは開創100年の記念すべき年でした。今回、150年を2年後に迎えますので、その節目におこなっていただくのがよいと思います。」



五重についてお話いただいた大通寺住職



今年の5月に開催した大通寺の五重にて



この6月の法要の時にお配りした『五重相伝のすすめ』ですが、ご希望の方にはお送りいたしますので、アンケートはがきにその旨をお書きいただければと思います。この五重について非常にわかりやすくかつ丁寧に書かれている一冊です。



## 災難と向き合う

今年、大正12年（1923）に起こった関東大震災から100年、そして、平成23年（2011）の東日本大震災の十三回忌に相当する年でした。心静かに、このような震災に思いを馳せるとき、良寛禅師（1758～1831）の言葉が胸に深く染み入ります。「災難にあう時節には 災難にあうがよく候 死ぬる時節には死ぬがよく候 是はこれ災難をのがるる妙法にて候」これは、良寛禅師が住む地域で大きな地震があった時、親しい方に宛てた手紙に書かれていたものです。一見すると、かなり辛辣な表現にも受け取れます。被災して大変な時に、なんて冷酷なことを言うのだという意見も聞こえてきそうです。しかしながら、この良寛禅師の言葉には、一時的ななぐさめではなく、真実に立脚した本当のやさしさを感じます。

いつの世も震災に限らず、災難のない時代はありません。また、私たちの命は必ず終わりがあります。誰も死を免れることはできません。その決して避けることのできない現実を生きているのが、私たちです。

この良寛禅師の言葉を味わうと、次の歌も想起され心に響きます。「足らぬ自分の力では越すに越されぬこの峠 護るお慈悲の御力で 越されぬままに越せてゆく」この歌は、浄土宗の僧侶である田中木又師（1884～1974）が詠まれたものです。自分の力ではどうすることもできない現実、それは災難や死もそうでしょう。その厳しい現実という険しい峠を目の前に、お念仏申す日々の中で、如来さまのやさしさに包まれ、その峠を越すことができないままに、不思議と越えさせていただける尊さを歌っています。

災難に真正面から向き合っていくことが「災難をのがるる妙法」と語る良寛禅師と、自分の力では越えられない峠を見つめ「越されぬままに越せてゆく」信心をいただいた田中木又師、このお二人から、仏法を行ずるといことがどのようなことなのか、言葉を通してではありますが、言葉を超えた真実の世界を味わうことができます。 〈文：立花 俊輔〉



信州善光寺に建つ地震塚

## 浄土宗の総・大本山について

### 善導寺(ぜんどうじ)

知恩院・善光寺・増上寺と続きまして、今回は札幌より一番遠い場所にある善導寺の紹介をしたいと思います。

福岡県久留米市にあり、境内の北側には九州最大の筑後川が流れております。正式な名称は井上山光明院善導寺せいじょうざんこうみょういんぜんどうじと申し、1191年に法然上人の直接の弟子であり、浄土宗の第二祖でもあります聖光房弁阿弁長上人しょうこうぼうべん なべんちやうが、九州におけるお念仏の根本道場としてお開きになられました。この方は鎮西上人ちんぜいや聖光上人とも呼ばれ滅後600年後には仁孝天皇より大紹正宗国師だいしょうしょうじゆうこくしという号も賜っておられます。境内地は15,000坪、およそ東京ドーム1つ分あり、中に数多くの建造物があります。現在の本堂は1786年に建てられ、九州地方に残る木造仏堂としては最大級のもので、国指定有形文化財になっています。善導寺は「おせがきのお寺」としても知られ、通常の寺院だと年に一度の施餓鬼会の法要を一年中おこなっており、施餓鬼棚も本堂内に常設しています。また、三祖堂というところには、寺院の由来にもなっております法然上人が師と仰ぐ善導大師を中心に法然上人、聖光上人の三祖のお像が奉ってあります。境内で現存する一番歴史のある大門は1651年より多くの参拝者を迎え入れ荘厳な佇まいをしております。

このように数多くの歴史的・文化的に数多くの建造物・書物が残っておりますが、われわれ浄土宗にとって重要なものは現在も保存されている『末代念仏授手印まつだいねんぶつじゆしゆ』と呼ばれるものです。

法然上人の死後、その教えについて多くの異なった解釈が行われました。その中において、直弟子であった聖光上人が中心となり法然上人の教義を選述し、自らの手印をもって浄土宗の本義を残されたものです。こちらは五重相伝において受者に伝えられます。

九州の地において浄土宗の教えを正しく守っているこの地、歴史に思いを馳せながらお参りするのはいかがでしょうか。最寄りの駅からは徒歩20分ほどかかりますので、車で行かれるのをおすすめします。

〒839-0824 福岡県久留米市善導寺町飯田550



今後の予定

## —— 大みそかに一緒に鐘を撞きませんか ——

除夜の鐘 12月31日(日) 23時45分より

除夜の鐘を撞いていただいた方には、絵馬とちょっとしたお菓子か果物をお渡ししております。

事前申込は必要ございませんので、ぜひとも新たな年を心清らかに迎えるべくご参加ください。当日は先着順に撞いていただくので、状況によりましては複数の方で一回とする場合もあります。

また、同時時間帯で近隣の寺院を巡るスタンプラリーも開催予定です！



## —— 同封リーフレットのご案内 ——

浄土宗開宗 850 年を記念して様々な事業がおこなわれています。その一環としておこなっている事業の案内を同封いたしました。

この好機に一人でも多くの皆さまにお念仏とご縁を結んでいただければ幸いです。写真のように上からなぞっていただき、お名前をお書きください。お参りの時にお渡しいただくか、お手数をおかけしますがお送りいただけると幸いです。また、結縁の証として切り絵の特別御朱印も同封しております。



清璋寺から

## 秋彼岸法要をおこないました！

秋風が舞う9月24日に秋彼岸の法要をおこないました。お参りの皆様と共に先にお浄土にいかれた大切な方々に思いを馳せてお念仏をおとなえしました。次回のお参りは新年1月2日の修正会並びに新春大祈願法要となります。



## 納骨壇を増設しました！

開山以来好評を得ていました納骨堂ですが、ここ数年空きが少なくなってきました。おにご不便をおかけしておりました。

このたび会食場所として使われていた場所を一部改装し、一段型と二段型の納骨壇を新たに設置しました。

比較的大きめのタイプですので、ゆっくりとお参りできるかと思います。ご見学の際は事前にご連絡いただければ幸いです。

倶会堂 特別壇・一段型・二段型の3タイプからお選びいただけます。12室〜4室の取替が可能です。※タイプにより異なります。ご本尊及び仏具一式が備え付けとなり、権利金に含まれます。

一段型 B (24室)	二段型 B (76室)
権利金 120万円	権利金 上段 65万円 下段 55万円
年間管理費 5千円	年間管理費 3千円
収 蔵 12個位	収 蔵 4個位

清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110  
清璋寺は毎週火曜日を寺院閉館日としております。お参りの際は、お寺にお問合せください。

慈啓会から

## 軽費老人ホーム A 型 札幌市菊寿園



札幌市菊寿園は10階建ての建物の中に、札幌市水乳児保育園の他、UR都市機構の住宅が併設する「スープの冷めない距離で親子が交流して暮らせる都市型老人ホーム」として今から53年前の昭和45年9月に、札幌市からの受託により開設しました。

施設の近隣には、商業施設や医療機関、金融機関等があり、市内中心部までは地下鉄で5分程度と立地にも恵まれており、入所後も安心してそれまでの生活を継続することが可能で、60歳以上のお一人暮らしに不安のある方や、事情によりご家族の支援が難しい方が、必要に応じて外部のサービスを受けながら比較的 low な料金で生活ができる50名定員の施設となっております。

軽費老人ホームには、食事の提供があるA型、自炊が必要なB型と食事に加えバリアフリー等完備のC型（ケアハウス）の3種類があり、当施設はその中のA型で、食事代は利用料金に含まれています。

居室は個室と2人部屋がありトイレやお風呂、洗面所等は共同でご利用いただけますが、清掃など共有設備の管理は、施設で行います。

職員は、日常生活の支援をする介護職員や生活相談員に加えて、病気や嗜好にあわせて栄養バランスを考慮した食事の提供を行う管理栄養士、血圧測定や健康相談など健康管理を行う看護師が平日勤務をしております。その他、医療面では月に1回、協力医療機関から医師が来園し、診察を行っています。

施設生活では、コロナ禍の影響により3年ほど行事等が実施できない状況が続き、レクリエーションなども自粛しておりましたが、コロナ5類移行後は、感染予防を継続しながら「貼り絵」などのクラブ活動や体力維持のための「介護予防教室」、「バスレク」などの行事を再開し、少しずつですが、コロナ禍以前の生活に戻すよう努めています。

入居者の皆様に安心して一日でも長く当施設において生活していただけるようサポートをさせていただくと共に、施設での生活が困難になった場合には、次の生活の場所についてのアドバイスもさせていただいておりますので、加齢や経済状況など様々なご事情により、ご自宅での生活に不安をお持ちの方は、是非ご見学を兼ねて札幌市菊寿園にお越しください。経験豊富な職員がお待ちしております。



敬老会



レクリエーション



夏祭り

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎ 0120-83-8291

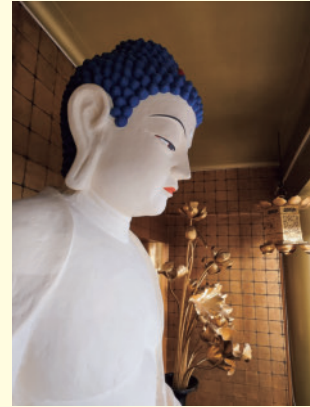
お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)  
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑩ **こつ ぶつ**  
**骨 佛**

本堂地下の納骨堂に安置されている座像で定印を結ぶ阿弥陀如来さまがこちらの骨仏です。昭和 21 年に当山が火災にみまわれた際、当時お預かりしていたお檀家の方々のご先祖のご遺骨が散り散りになり、どなたのご遺骨なのかわからなくなってしまいました。そのご遺骨を集め、白でご遺骨を粉にして造立したのがこの仏さまです。完成したのは、昭和 28 年、先代住職の時です。造立後、安置場所が変わったり、彩色したりして現在に至っています。近年では、平成 22 年に修補と彩色をしました。



札幌の浄土宗寺院紹介③

だいしょうじ  
**大松寺**

明治 40 年に新善光寺 2 代目住職の林玄松師が地域有志と共に説教所として草庵を建立したのが始まりです。

元々は簾舞にありましたが平成 19 年に開基 100 年記念事業として現在地である藤野に



新しい本堂・客殿・納骨堂を建立されて今に至ります。

先代住職の北見賢明師は長らく新善光寺に勤められていたのでご存じの方も多いかと思います。



左：大松寺前住職北見師 中央：新善光寺住職  
右：善道寺前住職今井師

大松寺 札幌市南区藤野 2 条 11 丁目 8 番 8 号

大松寺 札幌

検索

## 北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

本原稿を取りまとめているのは9月中旬ですが、気候が不安定なのかずいぶんと湿度の高い日、残暑のような気候の日もあり、汗ばむ日も少なくありません。そしてこれから秋から冬と季節の変わり目になりますので、皆さまもどうぞ体調にご留意の上、お過ごしください。

このコーナーでは、引き続き皆様のご質問、ご意見を募集しております。

### Q 友人より、法事は3回忌までやればいいのか、という話をされました。実際はどうなのでしょう。

A 「法事」とは、「法＝仏教の教え」「事＝物事を行う」の意味です。ですから、日頃ご自宅のお仏壇の前で勤行を行う（読経する）、仏さまへお給仕をすることも含まれますが、ご質問は「年忌法要」という種の法事のことと存じます。実はこれは、我々僧侶がご自宅へお参りする際などで大変多いご質問です。

お答えとしては、「大切な亡きご家族のご回向の為のご法事なので、出来得るかぎりお勤めください」です。

仏前に様々な物をお供えする作法を一般的に「供養」、勤行（読経・念仏）によりその功德を亡き人に手向ける作法ことを「回向」と言いますが、ご法事はこの二つのお作法を行って亡き人の為に善い行いを積むことと説きます。そしてその行為が「全ての人が極楽に生まれて、ともにさとりの道を歩むことを願うという、大きな慈悲の心をあらわす行為となる」と浄土宗では説きます。宗義的にもとても大切な仏事がこのご法事であると説くので、是非お勤めしていただきたいとお答えしています。

年忌法要は、亡き人の縁者が施主となり、一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・・・と年を追うごとに数回にわたり続きます。そして法事を行うとなると色々な準備が必要ですし、その準備はお施主が高齢になってくると大変な部分も多いことは確かです。また、それなりに費用も掛かります。そういった意味でその大変さから、最近は後半の年忌を省略する傾向になっていることも事実です。しかし前述の通り、大切な仏事ですので規模の大小はともかく、勤めていただくことをおすすめしています。

最近は、お供えもの、供花の準備を代行するサービスもありますし、お寺でも会場となる仏間を無償でご提供しています。ご自身で準備が難しいというお檀家さまがいらっしゃいましたら、どうぞご相談ください。

### 〈雑誌掲載情報!〉

来年、法然上人が浄土宗を開かれてから850年の節目の年を迎えます。その開宗850年を記念して昭文社より、「まっふるマガジン～旅でめぐる法然上人～」が発行されました。

その記事の中で新善光寺も少しだけ紹介されています。ほかにも全国浄土宗寺院の地図や各総・大本山の記事もふんだんに掲載されています。書店などでも置いているようなので、どうぞぜひ手に取ってみてください。



### 〈東京別院 霊源寺より〉

霊源寺でも秋彼岸法要をとりおこないました。平日の開催でしたが、多くの方に来ていただきました。霊源寺では春と秋彼岸法要に加えてご希望される東京近郊にお住まいの方へのお盆のお参りや法事や葬儀も受け付けております。どうぞご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

東京別院霊源寺 検索



### 編集後記

今号も遅くなりましたが、なんとか発行することができました。記事でも紹介しましたがお地藏様が新善光寺にやっこられました。もともと宝塔（永代供養合葬墓）と中庭にも2体ありましたが、これで6体になりました。どうぞお越しになられたときはぜひともお参りしてください。（真海）

※長きにわたり連載を続けてきました“ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話”ですが、作者都合により休載します。

※新善光寺の日々の情報は各種SNSにて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ



YouTube

新善光寺寺報  
*Hokuen* 53  
北 縁

発行 / 2023年10月発行  
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706  
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] [s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp](mailto:s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp)